

令和7年度 第6学年

教科	前年度正答率（％） 【全国比（P）】	課題となる 観点	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	前年度自校正答率 【全国比】	児童生徒の誤答の傾向と分析（○）、教育指導上の要因分析（●）	課題改善のための《指導場面（指導時期）》と具体的な取組	目標値	検証値	
国語	教科全体	72.5％【+6.3】	思考・判断・表現	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 ＜5・6年思判表C(1)カ＞	15.4 【－27.1】	○物語のポイントになる、登場人物の心情の変化や出来事について、とらえられない解答が見られた。これは、登場人物の人物像や作品のメッセージに着目して読み、適切に表現することができなかったためだと考えられる。 ●物語において、書いてある事実を読むだけでなく、登場人物の人物像や作品のメッセージなどをとらえさせる指導が不十分だった。また、読み取ったことをもとに対話する際、叙述をもとにその妥当性について吟味していく指導が不十分だった。	《物語を読む授業（4月・9月・3月）》 読む観点を明確にして、物語全体を大まかに読む指導を行う。叙述をもとに人物像や作品のメッセージについて読み取り、自分の考えを形成し、表現する活動を仕組む。それをもとに対話をさせることで、他者の考えと比較しながら自分の考えを深めたり広げたりすることができるようにする。	正答率 40％	％ 【P】
	知識・技能	78.1％【+5.6】							
	思考・判断・表現	68.2％【－2.1】							
	主体的に学習に取り組む態度	72.3％【+5.6】							
社会	教科全体	【】	<>		○ ●	《（月）》	正答率 ％	％ 【P】	
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り組む態度	【】							
算数／ 数学	教科全体	72.0％【+9.8】	思考・判断・表現	図を見て小数倍の文章問題（何倍を求めるか）を解くために除法の立式をしている。 ＜5年A（3）ア（ア）＞	46.2 【－23.4】	○除法でない計算方法を選んでいる、または、除法を選んでいても、除数と被除数が反対になっている解答が見られた。これは「～は～の○倍」や「小数倍」から、2つの数量の大小関係がイメージできていなかったり、図と式を関連させて考えられなかったりしたためだと考えられる。 ●「倍」に関する学習において、基準量と比較量を明確にして、大小関係をとらえさせる指導が不十分だった。「小数倍」でも、図を活用して基準量と比較量とその大小関係をとらえさせ、図と式を関連させながら適切な演算決定をさせる指導が不十分であった。	《小数倍を扱う学習（6月・10月・1月）》 「倍」に関する学習では、具体物や図を使いながら、基準量と比較量を明確にして、視覚的に大小関係をとらえられるようにする。そして、図と関連させたり、大小関係に立ち返ったりしながら、適切に演算決定ができるようにする。また、生活の中から基準量と比較量を自分で設定し、倍を求める活動を仕組み、倍に関する理解を深めることができるようにする。 《日々のつばきタイム（通年）》 「整数倍」「小数倍」など、倍を扱う問題に取り組ませる。言葉から数量関係を図に表してイメージさせ、演算決定をさせる。	正答率 65％	％ 【P】
	知識・技能	78.2％【+9.2】							
	思考・判断・表現	63.3％【+10.5】							
	主体的に学習に取り組む態度	57.7％【+13.4】							
理科	教科全体	59.9％【－9.4】	思考・判断・表現	画像像から翌日の天気を推測し、その理由を説明できる。 ＜5年B（4）イ＞	7.7 【－23.4】	○雲の動きを根拠にして、天気の詳細が適切にできていない解答が見られた。これは、雲が西から東に動いていくことを理解できていなかったためだと考えられる。また、雲の動きから天気を予想できていても、理由を適切に書けていない解答も見られた。これは、事実をもとに予想したり考察したりする表現の定着が不十分だったためと考えられる。 ●雲の動き、それをもとにした天気の様子を考察させる指導が不十分だった。また、事実や経験から実験結果を予想したり、実験結果から考察をまとめたりする活動において、事実を根拠に考えを表現させる指導が不十分だった。	《天気の変化に関する学習（5月・7月）》 雲画像や全国の天気などをもとに、雲の動きとともに、天気が西から東へ動いていることをとらえさせる。また、その事実をもとに、実際に次の日以降の天気を予想して表現させ、検証していく。 《実験や観察を伴う学習（通年）》 前時の実験結果や生活経験などを根拠に実験結果の予想をしたり、実験結果を根拠に考察をしたりする活動を仕組む。その際、書き方が分からない児童には文型を与えながら、事実を根拠に考えを書く習慣をつける。	正答率 35％	％ 【P】
	知識・技能	65.4％【－8.0】							
	思考・判断・表現	53.3％【－10.9】							
	主体的に学習に取り組む態度	45.1％【－11.9】							
英語	教科全体	【】	<>		○ ●	《（月）》	正答率 ％	％ 【P】	
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り組む態度	【】							